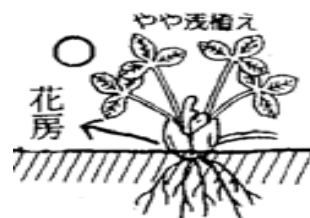


月旬	1 上中下	2 上中下	3 上中下	4 上中下	5 上中下	6 上中下	7 上中下	8 上中下	9 上中下	10 上中下	11 上中下	12 上中下	目標収量：2～2.5 トン 秀品：70%以上																																
栽培体系	育苗 ランナー配置 採苗 親苗定植 本畑作業 積極的保温 開花 収穫 定植 葉かき 芽整理、マルチ												株数:6000～6900 本 株間 22～24cm 条間 20cm～30cm 3 間ハウス 4 ベット 施肥例 <table><tr><th>施肥時期</th><th>肥料名</th><th>施用量</th><th colspan="3">成分</th></tr><tr><th></th><th></th><th></th><th>N</th><th>P</th><th>K</th></tr><tr><td>8 月下旬</td><td>堆肥</td><td>1～1.5 t</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>9 月中旬</td><td>いちご専用 苦土石灰 BM ようりん</td><td>200kg 90kg 60kg</td><td>20</td><td>24</td><td>20</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>12</td><td></td></tr></table>			施肥時期	肥料名	施用量	成分						N	P	K	8 月下旬	堆肥	1～1.5 t				9 月中旬	いちご専用 苦土石灰 BM ようりん	200kg 90kg 60kg	20	24	20					12	
	施肥時期	肥料名	施用量	成分																																									
			N	P	K																																								
8 月下旬	堆肥	1～1.5 t																																											
9 月中旬	いちご専用 苦土石灰 BM ようりん	200kg 90kg 60kg	20	24	20																																								
				12																																									
病害	萎黄病、炭疽病の予防で土壌所毒を実施する。 炭疽病・うどん粉病 秋のうちにうどん粉病と害虫防除を徹底する。 ハダニ類・アブラムシ類・アザミウマ類																																												
栽培上のポイント	1．親苗管理 ランナー20～30 本（株） 炭疽病、萎黄病の発生を避ける為、施設での採苗し、土壌消毒は必ず行う。 育苗畑基肥：窒素成分で 6～10kg ウイルスフリー苗を入手次第灌水チューブを設置し、水の飛散による病害拡大を防止する。 灌水は活着を促すため、定植から一週間程度はこまめに行う。 花と古葉を撤去して株を充実させる、一度に 3 枚以上は除去しない。 温度管理、ランナー発生を促すため、冬期間は低温をしっかり当てる。 2．育苗管理 中耕、除草はランナー発生前に行う。 晴天時は遮光を行い高温による株の消耗を防止する。（高温期）掛けたままには注意する。 追肥は生育を見て 1～2kg/10a を 1～2 回行い、株の草勢を強めに管理する。 炭疽病、萎黄病の被害株を発見したら直ちに除去し、伝染を防ぐ。 3．採苗 9 月中下旬に行い、あまり大きいもや根が老化したもの、病気の恐れのあるものは除去する。 4．定植準備 前作がいちごの場合は必ず土壌消毒を実施する。 定植は 9 月 15 日～25 日までにを行う。 冬季に根張りが進み土中に潜り込むので、やや浅植えとする。  定植前は十分灌水しておく。 5．定植後の管理 定植後 7～10 日は活着促進を図る為、株元へ十分灌水する。活着後はいっぴつ状態を見ながら灌水を行う。あまり控えると生育遅延となる。 温度地温を 20 前後に管理して根張りを促進し、気温は 25 以上とならないよう、株の消耗を抑える。 秋期にアブラムシや芽枯病の防除を行う。 6．冬期の管理 芽整理が遅れると小玉の原因となるので、12 月中～下旬に行い、それが終わったら クラウンを掘り起こし、不定根の発生を促し芽枯れ秒の予防を図る。 12 月末までマルチを皮膜する。 不時出蕾がある場合は 1 月半ばまでに摘除する。 7．保温管理 保温開始前は十分灌水する。 5 以下低温遭遇時間は 1 月下旬までに 700 時間とし、3 月下旬までに 950 時間前後となるよう調整する。 その年の天候によるが、積極的保温、蒸しこみは 1 月中下旬を目安に開始する。（600 時間）3 月上旬開花を目指して保温する。 皮膜資材カーテンは 11 月下旬までに設置する。冷え込みが厳しい場合は二重カーテンで低温遭遇時間を抑制する。 3 重カーテン（トンネル等）を準備できる方は設置して、蒸しこみで確実にいちごが起きるようにする。 8、開花前～開花後の管理 日中は 25～30 、夜間は 10 を目標に管理する。 ミツバチを手配し、開花直前から開花始めにハウス内に搬入する。 開花前にうどん粉病、アブラムシ類、ハダニ類、コナジラミ等、アザミウマ類の防除を行う。ミツバチに影響の少ない薬剤を選ぶ。 受粉が確実に行われるように、17 以上の高めの管理が望ましい。湿度が高くとハチの働きが悪くなるので換気に注意する。 9．生育ステージごとの温度管理の目安 <table><tr><th></th><th>日中</th><th>夜温</th></tr><tr><td>出蕾～開花</td><td>27～28</td><td>8～10</td></tr><tr><td>果実肥大期</td><td>23～25</td><td>8 以上</td></tr><tr><td>成熟期</td><td>20～25</td><td>8 以上</td></tr></table>													日中	夜温	出蕾～開花	27～28	8～10	果実肥大期	23～25	8 以上	成熟期	20～25	8 以上																					
		日中	夜温																																										
出蕾～開花	27～28	8～10																																											
果実肥大期	23～25	8 以上																																											
成熟期	20～25	8 以上																																											

平成 年度 いちご栽培暦

JA庄内みどり

月旬	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	目標収量:おとめ心低温カット栽培(10a)2～2.5t			
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下				
栽培体系	低温カット栽培 夜冷育苗 長期株冷栽培												10a 6,000～6,900本	10a施肥基準 堆肥:1～1.5		成分
													3間ハウス4ベット2条(8条) 4間ハウス5ベット2条(10条)	いちご専用	200kg	N:20 P:24 K:20
													条間20～30cm 株間22～25cm	苦土石灰	90kg	
病害	うどんこ病 うどんこ病 アブラムシ ハダニ													BMようりん	60kg	P:12

例

9月15日

3月5日

記入欄

△:定植

□:収穫

○:開花

長期株冷入庫日、夜冷処理開始日:●

栽培体系 : 低温カット ・ 夜冷 ・ 株冷

うね幅: cm 株間: cm 条間: cm 条数 条

全量施肥	肥料名	現物数量
追肥		

支店名: .

生産者氏名: .